

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	姫路市立こども発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和7年9月22日 ～ 令和7年10月3日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51	(回答者数) 47
○従業者評価実施期間	令和7年10月6日 ～ 令和7年10月27日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 30
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	週1回の親子登園で、こどもの育ちや課題等について保護者と職員で共有できる機会を年間を通じて設けている。	保護者も親子登園を楽しみに参加できるような活動内容（園外保育、買い物体験、クッキングなど）を取り入れ、こどもが無理なく楽しめる準備について保護者とともに取組むようにしている。	今後も親子登園日の活動や午後の保護者振り返りの時間を活用し、家庭での子育てを支えていく。また、悩みや困りごと等をタイムリーにテーマ設定した振り返りを行い、保護者同士が意見交換や情報共有できる場としていく。
2	毎日通園を基本とし、こどもの育ちにに応じた保育を提供できるよう努めている。生活や遊びを重ねるなかで、こども自身が自分の身の回りのできごとに気づいたり働きかけていく力を育めるように取り組んでいる。	地域園所のこどもが各歳児で体験していく活動を、一人一人のこどもが「わかって楽しめる」よう、教材や環境を工夫し、保育を基盤として支援を行っている	多職種の視点も取り入れながら、個々のこどもに必要な支援、環境、教材を整えていく。また、保育に関連する外部研修への参加や内部研修を行い、保育の質の向上やあそびを展開する力をつけていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	マニュアル、BCP、事業所支援プログラムなど、職員が十分に把握・理解できていないものがある	各種マニュアル、BCP等策定し、毎年見直して職員にも周知を図っているが、策定に携わる職員に限られており全ての職員に浸透していない	策定は主にリーダー格の職員で行っているが、できるだけ多くの職員が携わって策定し、理解を深められるようにする。保護者への説明前に、職員も再確認する機会を設ける。
2	情報発信が上手くできていない	ホームページのレイアウトは、市としての規定に則る必要もあるため、裁量は限られている 個人情報保護の観点から、発信できる情報、方法が限られている	保育中の様子を可視化して（写真、動画など）保護者に伝えられる方法を積極的に取り入れていく
3			